

2019 年度長野県水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本県の農業は、変化に富んだ気象や地形を活かし、農畜産物の総合的な供給産地としての役割を果たすとともに、農業者の先進性と勤勉性による高い技術力により、地域の基幹産業として発展してきた。

特に、米については、全国トップクラスの高い1等米比率と単収を誇るとともに、基幹である園芸作物は、レタス、りんご、ぶどう、カーネーション、えのきたけなどの全国シェア上位品目をはじめ、質の高い多様な品目・品種がバランスよく生産されている。

一方で、消費人口の減少と高齢化の進行により国内マーケットは量的に縮小するとともに、消費者の持つ情報量の増加やライフスタイルの変化等により、農畜産物に求められる品質・味・価格などの価値は多様化・複雑化しており、需要に合わせた計画生産と需要が創出できる分野への的確な対応が求められている。

加えて、水田農業については、平成30年産からの米政策の見直しを踏まえ、引き続き主食用米の適正生産に取り組むとともに、所得向上を図るため、園芸品目など高収益作物の導入を進める必要がある。

また、本県農業を支える農業者は、今後も減少と高齢化の進行が見込まれることから、本県農業の生産力を将来にわたり維持していくためには、地域農業を担う経営体の確保・育成や農地利用の効率化・高度化などによる農業生産構造の強化が喫緊の課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

国の米政策の見直しを踏まえつつ、水田への加工・業務用野菜等の園芸作物の導入のほか、麦・大豆等の戦略作物や需要が期待できる新規需要米、地域振興作物（そば、野菜等）の生産振興を図ることとする。

(1) 主食用米

主食用米の構造的な需要の減少に加え、民間在庫量の適正水準の維持により、米の需給と価格の安定を図るため、国が示す需給見通しに沿って県農業再生協議会が定める生産数量目安値を踏まえた適正生産を基本に、競争力ある効率的な経営体が主体となった持続性の高い生産構造を実現するため、「主食用米+ α 」による経営の複合化や担い手への農地の集積による規模拡大、AI・IoT技術を活用したスマート農業技術の農業者への実装を加速化、トヨタ式カイゼン手法の活用による生産工程の見直し等による生産コストの削減、県オリジナル品種「風さ

やか」や「信交酒 545 号（山恵錦）」の生産拡大を推進するとともに、食味・品質ともに優れた高品質な米の生産を進める。

（２）非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の全国的な需要の減少が見込まれる中で、飼料用米を転換作物としての主要な作物の一つに位置付ける。

飼料用米の生産拡大にあたっては、耕畜連携に加え、広域的な流通を積極的に推進することにより供給先の確保を図る。

県段階の取組として①多収品種の作付け、②直播栽培、③疎植栽培、④高密度播種育苗技術、⑤ブロックローテーション、⑥ほ場の団地化、⑦施肥効率化技術について産地交付金を活用し、生産性の向上・コスト低減を図るとともに、流通保管体制の整備を図る。

また、「ふくおこし」など多収品種の導入を進め、導入に伴う産地交付金の追加配分額は、当該取組のみに使用できることとする。

イ 米粉用米

県内学校給食における米粉パンの活用など、地域内流通を主体に推進する。

県段階の取組として①多収品種の作付け、②直播栽培、③疎植栽培、④高密度播種育苗技術、⑤ブロックローテーション、⑥ほ場の団地化、⑦施肥効率化技術について産地交付金を活用し、生産性の向上・コスト低減を図る。

また、多収品種の導入に伴う産地交付金の追加配分額は、当該取組のみに使用できることとする。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の需給ギャップを補い、目安値に沿った適正生産を実現するため、現在、意欲ある事業者によって取り組まれている 380 トン程度の輸出米について、長野県農産物等輸出事業者協議会を中心にその拡大を推進する。

米の新市場の開拓に伴う産地交付金の追加配分額は、当該取組のみに使用できることとする。

エ WCS用稲

耕畜連携の取組をすすめ、低コスト生産や適切な栽培管理により、品質の高いWCS生産を進める。

県段階の取組として①多収品種の作付け、②直播栽培、③疎植栽培、④高密度播種育苗技術、⑤ブロックローテーション、⑥ほ場の団地化、⑦施肥効率化技術について産地交付金を活用し、生産性の向上・コスト低減を図る。

オ 加工用米

味噌・酒造メーカーなど実需者の需要に見合った供給に向けて、産地交付金を活用しつつ、複数年契約等による味噌・酒造メーカーなどの実需者との結びつきを強化し、取組の拡大を図る。

カ 備蓄米

生産数量目安値の外数として取り扱われる備蓄米については、長野県に割り当てられている入札優先配分枠を活用した取組を進める。

(3) 麦、大豆、そば

機能性や加工適性等に優れた県オリジナル品種の生産を拡大するとともに、基本技術の励行等による安定生産と品質向上により、実需者の期待に応える産地づくりを進める。

大麦については、機能性に優れた「東山皮糯 109 号（ホワイトファイバー）」の安定生産・作付拡大を推進する。

小麦については、パン・中華麺用需要に対応した「ゆめかおり」、「ハナマンテン」の導入を推進する。

大豆については、実需者が求める加工適性の高い品種導入により、面積の拡大を図る。

そばについては、「長野 S 8 号（商標名：信州ひすいそば）」の品質向上・安定生産等の取組により、生産拡大とブランド力の強化を推進する。

また、県段階の取組として、当該作目の単収・品質の向上に向け、排水対策などの対策技術の徹底・定着により、魅力ある転換作物として生産拡大を進めるため、産地交付金を活用して取組を支援する。

(4) なたね

なたねについては、水田フル活用を図るため、産地の実情に応じて導入を進める。

(5) 高収益作物（果樹）

県オリジナル品種や優良品種の生産拡大と長期出荷体制の構築、省力的で収益性の高いりんご新わい化栽培などの普及を進める。水田活用においては、暗渠など排水対策の徹底を図るとともに必要に応じて客土を行うなど土壌改良に努める。

また、県段階の取組として、当該作目の導入による水田経営の複合化により、経営の体質強化を進めるため、産地交付金を活用して作付の拡大を支援する。

(6) 高収益作物（野菜）

需要に応じた計画的な生産の推進により、信頼される野菜産地の持続的発展を図る。

また、果菜類の振興や契約取引の推進により、実需者の多様なニーズ、流通の変化に対応できる新たな産地づくりを進める。

水田活用においては、機械化体系が可能な加工・業務用野菜（たまねぎ、キャベツ、ブロッコリー、ジュース用トマトなど）や、育苗ハウスの後利用などによる導入を進める。

また、県段階の取組として、当該作目の導入による水田経営の複合化により、経営の体質強化を進めるため、産地交付金を活用して作付の拡大を支援する。

(7) 高収益作物（花き）

品目毎に用途や需要期が細分化されているため、実需者との連携のもとに、立地条件を踏まえた品種や作型導入、需要に応じた規格の見直しを図り、計画的で安定した生産供給体制を確立する。

水田を活用した露地品目（キク、リンドウ、シャクヤク、グラジオラス、アスター等）においては、灌排水対策等の徹底を図る。

また、県段階の取組として、当該作目の導入による水田経営の複合化により、経営の体質強化を進めるため、産地交付金を活用して作付の拡大を支援する。

(8) 飼料用作物

自給飼料に立脚した畜産経営を確立するため、優良品種の作付けを推進し、飼料の品質向上を進める。

(9) 畑地化の推進

特色ある産地づくりを進めるため、野菜等の高収益作物や、生産性の高い麦・大豆等の本作化を進めようとする地域については、積極的に産地交付金の追加配分を活用して畑地化を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	30,978	30,311	30,074
飼料用米	267	259	280
米粉用米	23	19	25
新市場開拓用米等	62	64	85
WCS用稲	240	221	245
加工用米	745	698	857
備蓄米	44	242	242
麦	2,336	2,699	2,753
大豆	1,414	1,666	1,683
飼料作物	953	953	953

そば	2,722	2,795	2,823
なたね	1	1	1
その他地域振興作物	3,692	3,724	3,725
野菜	3,296	3,345	3,345
花き・花木	242	247	258
果樹	44	47	47
雑穀	20	20	20
地力増進	9	19	19
景観形成	5	3	3
その他	38	43	43

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度	目標値
				(2018年度実績)	(2020年度)
1	飼料用米、 米粉用米、 WCS用稲	新規需要米（飼料用米、米粉用米、 WCS用稲）の取組拡大への支援	取組面積	(2018年度) 398 ha	(2020年度) 420ha
2	飼料用米	飼料用米の流通保管体制整備の取 組への支援	取組面積	(2018年度) 3.5ha	(2020年度) 25ha
3	麦類・大 豆・そば	産地推進品目（麦類・大豆・そば） の単収等向上のための技術定着へ の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・麦類の作付面積 ・麦類の10a当 り収穫量 ・大豆の作付面積 ・大豆の10a当 り収穫量 ・そばの作付面積 ・そばの10a当 り収穫量 	2,335ha 334kg 1,427ha 165kg 2,726ha 50kg	2,752ha 377kg 1,677ha 180kg 2,806ha 73kg
4	別紙リス トのとおり	産地推進品目（野菜等の高収益作 物）の作付拡大への支援	作付拡大面積	64 ha	30 ha
5	加工用米・ 新市場開拓 用米	加工用米・新市場開拓用米の取組 への支援	対象作物の作付面 積	806ha	882ha
6	別紙リス トのとおり	高収益作物（野菜・花き・花木・果 樹）の取組への支援	対象作物の作付面 積	1,271ha	1,310ha